

現行道有林基本計画の実績と評価について

現行道有林基本計画の基本方針

I 森林の多面的機能の持続的発揮

- 期待される機能に応じた森林の整備の推進
 - ・全域を公益的機能の発揮を期待する森林に位置づけ、機能に応じた森林の整備を推進
 - ・公益的機能に加えて、木材生産機能の発揮を求められる森林で積極的に主伐・再造林

○森林の保全の推進

- ・生物多様性の保全や、事前防災・減災に向けた治山対策など、森林の保全を推進

II 地域と一体となった森林づくり

○地域の森林づくりの促進

- ・低コスト化等に先導的に取り組み、地域の林業・木材産業の振興に貢献

○道有林材の戦略的な供給

- ・道有林材を安定的に供給し、道産材の需要拡大等を推進

○森林の多様な利用の推進

- ・木育活動の場の提供など森林の多様な利用を推進し、森林づくりへの道民の理解と参加を促進

これまでの主な取組・評価

○区分に応じた森林の整備

- ・全域を公益的機能を重視する森林に設定
- ・全域で森林の機能に基づき持続的に森林経営を行うための森林経営計画を策定

森林経営計画に基づき道有林の整備・管理を適切に実施

○森林整備の実績(治山事業を含む)

	計画量	実績見込	進捗率
伐採材積(千m ³)	2,649	2,657	100%
間伐面積(百ha)	238	192	81%
造林面積(百ha)	73	61	84%
路網開設延長(km)	78	100	128%

事業の進捗率は、伐採と路網整備については「順調」、間伐、造林については台風被害の復旧を優先させたため「やや遅れ」

○生物多様性保全の森の設定

- ・貴重な森林:15箇所
- ・希少野生動植物保全の森:19箇所

生物多様性保全の取組を着実に推進

○森林施業の低コスト化の実績

- ・高性能林業機械が作業しやすいよう間伐の約7割を列状で実施
 - ・地拵の約4割を大型機械で実施
 - ・コンテナ苗の利用を推進
- (H29:22千本 → R2:183千本)

低コスト森林施業を率先して実施

○原木の安定供給

- ・林業事業者が長期的に事業を受注できる仕組みを導入(供給実績 239千m³)
- ・素材生産業者等と協定を締結し、原木を供給(供給実績 203千m³)

地域の需要を踏まえて安定的に原木を供給

○道有林の活用

- ・道有林で実施された木育活動への参加人数 6,211人(H29~R2)
- ・森林吸収量の認証を受けたオフセット・クレジットの販売 累計1,201t-CO₂(R3.4)

森林づくりへの道民理解の促進に寄与

長期的な目標の指標

育成複層林など多様な森林に誘導する人工林の面積
目標値(R8):51千ha

目標の指標の進捗状況

H26	H27	H28	H29	H30	R1
36千ha	39千ha	40千ha	40千ha	41千ha	42千ha [100%]

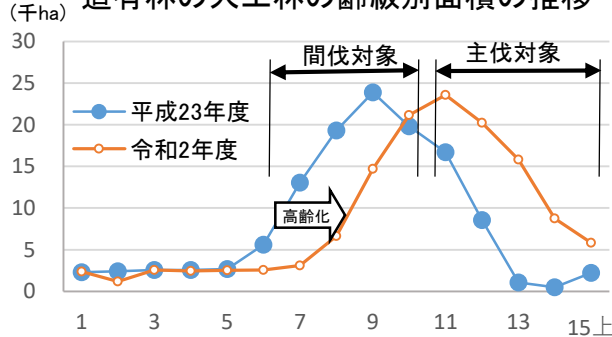
指標は順調な推移で、引き続き多様で健全な森林づくりが必要

道有林を取り巻く主な動向と果たすべき役割について

道有林を取り巻く主な動向

<高齢化が進む人工林>

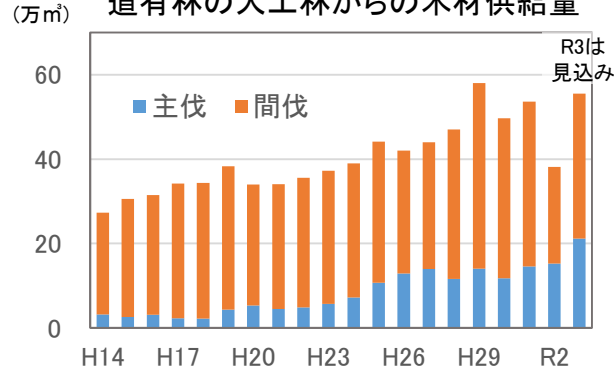
道有林の人工林の齢級別面積の推移



- 主伐対象面積：29千ha(H23)→74千ha(R2)
- 間伐対象面積：76千ha(H23)→46千ha(R2)
- 主伐対象(11齢級以上)、間伐対象(7～10齢級)
- 今後、主伐の対象となる高齢の森林が増加

<木材需要の高まり>

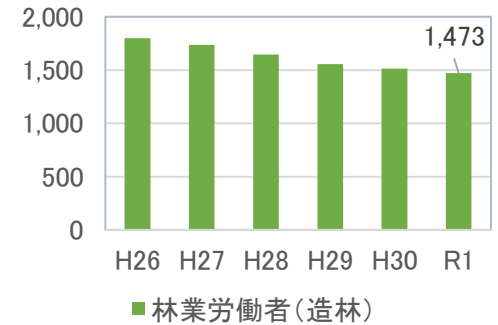
道有林の人工林からの木材供給量



- 地域の木材需要は増加傾向
- 主伐量増加に伴い造林面積も増加
- 間伐量が伐採量の大半を占めるが、今後、間伐の対象となる若齢の森林は大幅に減少

<林業労働を取り巻く状況>

北海道の林業労働者数(造林)



- 造林面積が増加する中、造林分野の林業労働者数は減少傾向

造林分野の林業労働者数が減少する中、人工林において若齢級で間伐し、高齢級で主伐・再造林を行う、従来の森林づくりを続けていけば、将来、原木を安定的に供給することが難しくなる

道有林の果たすべき役割

道自ら所有し管理運営する道有林において、直面する行政課題の解決に向けて森林づくりを先導的に実践する

解決すべき当面の行政課題

- 増加する地域の木材需要を踏まえた、**植栽木に加え天然木を有効に活用した原木の安定供給**
- 植栽木に主眼を置いた従来の森林資源把握に加え、**ICTを活用して天然木の資源量を把握する新たな手法の確立**
- 森林の現況に応じて、積極的な主伐・再造林、人工林の針広混交林への誘導、活力ある広葉樹天然林への誘導を行う**北海道らしい森林づくりの確立**

基本計画見直しのポイント

公益的機能の高度発揮や、地域の木材需要を踏まえた原木の安定供給を図るため、植栽木を主体とした現行計画に天然木の有効活用の観点を加え、北海道らしい森林づくりを先導的に実践する計画に見直す必要

多様で健全な森林づくり

現状・課題

<森林資源の把握>

- ・熟練した技術者による空中写真の目視や現地調査により資源量を把握しており、技術と労力が必要



空中写真の立体視



現地調査

<人工林における森林づくり>

	計画量	実績見込	進捗率
伐採材積 (千m ³)	2,649	2,657	100%
間伐面積 (百ha)	238	192	81%
造林面積 (百ha)	73	61	84%
路網開設延長 (km)	78	100	128%

現計画については、概ね順調な事業実績

- ・トドマツは高齢化に伴い腐朽が進み、木材としての利用価値低下の恐れ
- ・箇所によっては、広葉樹の更新が見られる
- ・現況に応じて、森林を区分し、適切な施策を実施する必要

<天然林における森林づくり>

- ・長期間、伐採を抑制してきたが、資源が回復しつつあり、試行的に広葉樹を伐採
- ・天然林資源の回復状況を把握した上で、上層木を伐採し、天然更新を促す必要



天然林の広葉樹



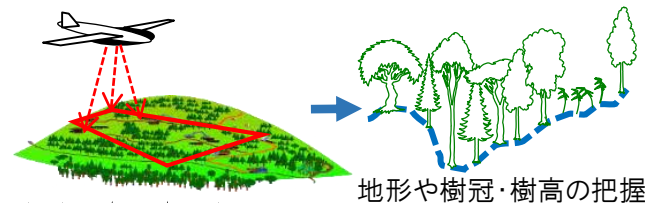
道議会庁舎と利用されたヤチダモ



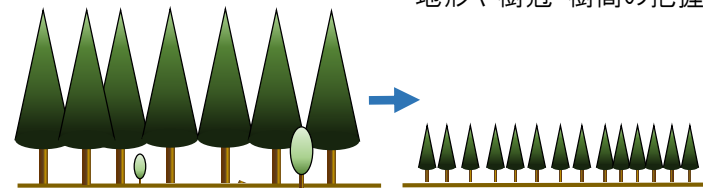
検討の方向性

森林の現況に応じた多様な森林づくりをどのように先導的に進めていくか

- ICT技術を活用して広範囲の森林資源を効率的に把握し、施業実施箇所を選定
 - ・樹木の成長や路網からの距離により、人工林を区分
 - ・天然木の持続的な供給に向けた資源量把握手法の確立
- 積極的な伐採・再造林
 - ・樹木の成長が良く、路網が整備され、機械による作業が可能な箇所での伐採・再造林を実施
- 天然力を活用した森林づくり

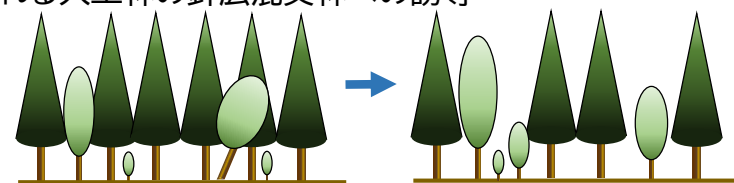


地形や樹冠・樹高の把握



○広葉樹の天然更新が見られる人工林の針広混交林への誘導

- ・広葉樹が混交している箇所や、効率的な施業が困難な箇所での間伐を繰り返して、針広混交林へ誘導

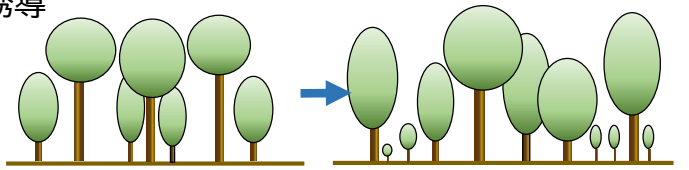


形質不良の広葉樹もあわせて間伐

針広混交林への誘導

○活力ある広葉樹天然林への誘導

- ・資源が回復した天然林において、上層木を伐採し、残存木の成長や天然更新を促し、活力ある森林へ誘導



上層木を伐採

上・中・下層からなる多段林へ誘導

めざす姿

針葉樹人工林、針広混交林、広葉樹天然林などからなる北海道らしい多様で健全な森林が水源かん養・山地災害の防止・木材生産等の機能を高度に発揮

地域への貢献

現状・課題

< 林業事業体及び林業労働者の状況 >

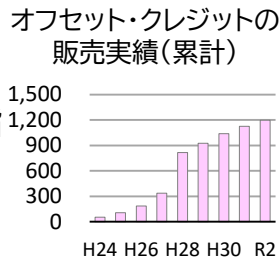
- ・植林や下草刈り等の造林分野の作業に従事する労働者は減少傾向にあり、機械化の推進による森林施業の低コスト化、省力化が必要
- ・林業の労働災害の発生頻度は、他業種に比べて高く、伐倒作業等の機械化が必要

< 原木の需要と供給 >

- ・高齢級のトドマツ人工林の主伐・再造林を進めるため、大径木の高付加価値が必要
- ・広葉樹材・森林認証材・木質バイオマスなど多様な木材需要への対応が必要
- ・木材需給に急激な変化が生じた場合、供給調整の役割を果たす必要



トドマツ丸太



< 地球温暖化対策 >

- ・道は、「2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロとすることを目指す」と表明
- ・二酸化炭素の排出量削減に取り組む企業との連携が必要

< 胆振東部地震からの復旧 >

- ・被害面積約1.9千haに対し、令和3年度までの植栽による復旧面積は、約79haの見込み
- ・計画的に復旧事業を進める必要

< 職員の技術力向上 >

- ・地域の多様なニーズに応えられるよう森林づくりの技術力の向上が必要

検討の方向性

資源や技術力を活用した地域貢献をどのように進めていくか

検討の方向性

- 森林施業の低コスト化・省力化の推進
 - ・ICTハーベスタなど先進的な高性能林業機械や下草刈り用の林業機械の導入の促進
 - ・下草刈り作業の省力化につながるよう、成長の良いカラマツ類のコンテナ苗を率先して植栽
- 道有林の森林づくりを担う林業事業体の育成
 - ・造林、保育作業の軽労化や、木材加工工場と連携してトドマツ大径木の付加価値向上に取り組む林業事業体の育成
- 地域の木材需要を踏まえた原木の安定供給
 - ・建築用材や家具材など地域特有の需要に対応するため、素材生産事業者や木材加工工場等と協定を締結し、原木を供給
 - ・木材の需要動向に応じた弾力的な木材供給
- 企業と連携した森林づくりによるゼロカーボン北海道への貢献
 - ・オフセット・クレジットを共同で販売している市町と新たな販売戦略を検討
- 胆振東部地震被害地の復旧
 - ・被害森林の復旧に率先して取り組み、その成果を一般民有林へ普及
- 道有林の森林づくりを担う人材の育成
 - ・広葉樹伐採等の技術の継承に加え、ICTや森林施業の低コスト化・軽労化などの新たな技術の習得



林内で丸太を玉切るハーベスタ



カラマツコンテナ苗



下草刈り用林業機械



地震による被害地



職員向け広葉樹丸太の品等格付け研修

めざす姿

道有林の先導的な取組が民有林全体に定着し、
地域の林業・木材産業が発展

道有林基本計画骨子(素案)について

現行道有林基本計画(H29年3月策定)	次期道有林基本計画骨子(素案)	摘要
<p>はじめに</p> <p>第1 道有林の整備・管理に関する基本的な方針</p> <p>1 計画策定の考え方</p> <p>(1)計画策定の趣旨</p> <p>(2)計画の位置付け</p> <p>(3)計画の期間</p> <p>2 道有林を取り巻く情勢</p> <p>(1)社会・経済情勢の変化</p> <p style="padding-left: 20px;">＜森林に対する道民の期待＞</p> <p style="padding-left: 20px;">＜森林・林業政策の見直し＞</p> <p style="padding-left: 20px;">＜地球温暖化防止と生物多様性保全の動き＞</p> <p style="padding-left: 20px;">＜人口減少社会の到来と地方創生の動き＞</p> <p>(2)前計画の取組と課題</p> <p style="padding-left: 20px;">＜多様で健全な森林の育成＞</p> <p style="padding-left: 20px;">＜地域への貢献＞</p>	<p>はじめに</p> <p>第1 計画策定の考え方</p> <p>1 計画策定の趣旨</p> <p>2 計画の位置付け</p> <p>3 計画の期間</p> <p>第2 道有林の整備・管理に関する基本的な方針</p> <p>1 前基本計画の取組の評価</p> <p>2 道有林を取り巻く主な動向</p> <p>(1)森林・林業政策の動き</p> <p>(2)人工林資源の現況</p> <p>(3)地域の木材需要の動向</p> <p>(4)林業労働を取り巻く状況</p> <p>3 道有林の果たすべき役割と課題</p> <p>(1)道有林の果たすべき役割</p> <p>(2)課題</p>	

現行道有林基本計画(H29年3月策定)	次期道有林基本計画骨子(素案)	摘要
<p>3 基本方針</p> <p>(1) 森林の多面的機能の持続的発揮 <期待される機能に応じた森林の整備の推進> <森林の保全の推進></p> <p>(2) 地域と一体となった森林づくり <地域の森林づくりの促進> <道有林材の戦略的な供給> <森林の多様な利用の推進></p>	<p>4 基本方針と重点取組事項</p> <p>(1) 森林の現況に応じた多様で先導的な森林づくり <ICT 技術を活用した森林資源の把握> <積極的な伐採・再造林> <天然力を活用した森林づくり></p> <p>(2) 資源や技術力を活用した地域貢献 <森林施業の低コスト化・省力化の推進> <道有林の森林づくりを担う林業事業者の育成> <地域の木材需要を踏まえた原木の安定供給> <企業と連携した森林づくりによるゼロカーボン北海道への貢献> <胆振東部地震被害地の復旧> <道有林の森林づくりを担う人材の育成></p> <p>5 計画の長期的目標</p> <p>(1) 森林の現況に応じた多様で先導的な森林づくり (2) 資源や技術力を活用した地域貢献</p>	

現行道有林基本計画(H29年3月策定)	次期道有林基本計画骨子(素案)	摘要
第2 森林の整備に関する事項 1 めざす森林の姿 2 森林の区分と基本的な取扱い 3 森林づくり (1) 森林の整備 (2) 森林の保全 4 林産物の供給 5 地域と連携した森林施業等 6 森林施業の低コスト化等 7 林業事業体等の育成	第3 道有林の整備・管理に関する事項 1 森林づくりに関する事項 (1) 森林資源の把握 (2) 森林の整備・管理 2 地域貢献に関する事項 (1) 森林施業の低コスト化・省力化 (2) 林業事業体の育成 (3) 林産物の供給 (4) 胆振東部地震からの復旧 (5) 道有林野の活用 (6) 人材の育成	
第3 森林の管理に関する事項 1 森林の巡視等 2 保安林等の適切な管理 3 入林者の利便性の向上 4 森林資源の適切な把握		第3-1に移動
第4 地域の活用に関する事項 1 道有林を活用した地域の振興 2 木育による道民理解の促進		第3-2(5)に移動
第5 整備管理計画の策定		第4-2に移動
第6 計画の推進体制 1 推進体制 2 推進管理	第4 計画の推進体制 1 推進体制 2 整備管理計画の策定 3 推進管理	